



(一)

潔めの鮮血

神の子イエスキリストの血すべて罪より我儕を潔む(一約)  
 貧究人を訪問者がロンドンの貧乏人ばかり住ふ市區に行つて  
 其中でも極く貧乏の人が住ふ最上の階へ昇つて行きました(ロ  
 ンドン)邊にてハ極貧の人は最上の階に住ふこと東京あたりの  
 裏店のやうなり樓梯を上りきるときに恐ろしい権幕で今にも  
 掴みかゝりさうな若い男が上り口に拱手をして睜眼つけて居  
 るのを見ました訪問者は其様を見て慄とする程氣味が悪かつ  
 たので罷めて歸らうと思ひましたが氣をとりに言葉を  
 かけ何か其人の爲になることをしたく又其人を幸福にしたく  
 て來ました又其手に持つ書のうちには凡て幸福の秘義か記て  
 あると云ふことをも話しました所が此立て居た悪漢は頓のや  
 うに訪問者を壓返し出て行けまどくして居ると蹴落すと

020414-000-8

特51-952

潔めの鮮血

三浦 徹/著

M21

ABI-0223



鳴りたてました然し訪問者は其無禮を忍んで穩に其事を諭さうと思つて居るとき上り口の破損た戸の間から愍然な聲で何か云ふものがあるので夫を聞て君の書には凡の罪を聖潔にする事が書てありますかと云ふ問でありました訪問者は如是頑固な罪人の居るところにかう云ふ問があらうとは思はなんだので驚て居るとき又も震聲でどうが聞かして下さい君の書には凡の罪を聖潔にする事が書てありますかと云ふ問は凡の訪問者は戸を開て室にはいつて見れをいやはや其様は空屋同様で家具などは何もなく唯三足の椅子が一あるさりで隅の方に鏡の束が積で其上に今にも死ぬかと思はれるやうな老婆が横になつて居りました其老婆は訪問者が入り来るのを見る起なをうて片臂をつき心配らしく見つめて又前の言葉を繰返して君の書には凡の罪を聖潔にする事が記してあり

ますかと問ひました訪問者は其傍によつて三足の椅子にかゝつて汝は罪を聖潔にする血のことを聞て何にする積りかと問ひ返したところが夫を知つて私がどうするのだと聞なさるのかと恨めげに問ひかへて云ふには聞て下さい私は死にかゝつて居ります私は神の前にありのまゝで立たうとする所でございます私は悪ものでございましてこれまでは極の悪ものでございまして私はすべて私の行つたことに答をせなければなりませんと云ひましたは是まで行ひ来たことがよく分つて甚だだやかでないやうに見えました又云ふには私が一年許前に會堂の前を通りかゝつて不斗參堂で見ましたが何の氣もなく又直に出てしまひました然し其時不斗開た一言が私の耳に入つてから未だに忘れられませんが其言葉は凡の罪を聖潔にする血と云ふやうなことでございまして今夫を

(四)

聞くことが出来るならどうが話してください君の書のうちに  
 其ことが書てあるなら聞かしてくださいと求ひました其所で  
 訪問者は聖書を繙て約翰一書の第一章を讀だところが其言葉  
 はよく老婆の胸に落るやうに見えました訪問者が罷めやうと  
 すると老婆はもつと讀でくださいと頼むので又第二章を讀み  
 ました其時何か人の来るやうな容子なので回顧て見れば例の  
 悪漢が面をうむけて頬に涙を流して立て居ました訪問者は三  
 章から四章五章と讀で又翌日も来ることを約束したので漸く  
 老婆にゆるされて歸りました夫から此老婆が六週間ほどたつ  
 て死ぬまでは一日も来て聖書を讀むことを怠りませんでした  
 が眞に福のことには此老婆がイエスを信じて平和を見出しま  
 した其息子は毎日く母の聖書を聞くととき傍に立て靜に聞て  
 居ましたが夫は其男のためにならぬことばありませんでした

(五)

さて其男は母の葬禮のとき葬穴を埋めながら訪問者を脇にま  
 ねいで先生私は是から死ぬまで凡の罪を聖潔にする血のこと  
 を人々に話して生涯を送るの他に何も爲まいと存じますと云  
 ひましたが是くして母と子とが救はれました一人は去つてキ  
 リストと共になり一人は天から神の子の來るのを待つて活る  
 神に事へて曠野に暫く遺つて居たとまほします

喜の音第五十四號

明治廿一年四月十七日印刷  
明治廿一年一月三日出版

著者兼  
發行者

三浦徹

東京日本橋區麩町  
一丁目四番地寄留

製紙分社

印刷者 廣瀬安七

東京日本橋區  
兜町一番地